

このゆびと～まれ



兵庫県立西はりま特別支援学校
西はりプロジェクト

周囲の山の木々は赤や黄色に色づき目にも鮮やかです。朝晩の冷え込みが強くなってきましたが、綺麗な紅葉を見上げると、少しほっこりした気持ちになります。本校の子どもたちは、寒さにも負けず、元気に運動をしたり遊んだりしています。子どもたちに負けないよう、体調を整えて、過ごしていきたいものですね。今年は、例年以上に感染症予防に努めながら、過ごしていきましょう。さて、今回は、「交流及び共同学習」についてお届けします。



交流及び共同学習ってどんなもの？

世の中には色々な特性を持った人がいるよね。色々な人がいる中で、みんなが仲良く生活する（共生社会）ためにはお互いのことをよく知る必要がある。だけど、ただ日常生活を送るだけではお互いをよく知ることができないので、一緒に活動する機会を設けることで、互いのことを知っていくよ。これを「交流および共同学習」と言うんだ。



共生社会（誰もが人格と個性を尊重しあえる社会）を目指す



交流及び共同学習ってどうやってするの？

小中学校での交流は以下の通りに大別できるよ。



※一部の高等学校と特別支援学校でも交流がなされています。





交流及び共同学習ってどうやって進めるか説明するね

①関係者の共通理解



相手校(相手学級)と活動のねらいや意義について共通理解する。話し合いの機会は、年間計画に位置付けるなど計画的に確保する。

②体制作り



学校全体で組織的に取り組むことが大切。校内研修や事例報告会など学校全体で取り組みを共有する。

③計画



年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に取り組む。単発のイベントにならないようにする。

④交流及び共同学習の実施



事前学習—**活動**—**事後学習**の流れで行う。

事前学習:活動のねらいや内容について子どもの理解を深める。

活動:子どもたちが主体的に取り組む活動にする。

事後学習:振り返りとともに、障害者理解に係る丁寧な指導をする。

⑤評価



活動のねらいは達成できたかどうか確認し、今後の活動に活かす。評価は、活動直後の状況だけではなく、その後の日常生活における変容も見る。

参考:「交流および共同学習ガイド」平成31年文部科学省



西はりま特別支援学校では①学校間交流(地域の小中学校の児童生徒と本校の児童生徒が交流をする)②居住地校交流(本校の児童生徒が居住地の小中学校に出向き交流する)③スクールクラスター交流(地域の支援学級の児童生徒が本校に来て交流する。)の3つがあります。「スクールクラスターの交流のご案内」(チラシ)もHPにアップしますので、ぜひご覧くださいね。